

平成 30 年度 そだちネットワーク部会活動計画

【目的】

様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと

～4つの基本的柱～

- ①子どもの困り感や特性に合わせた支援
- ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）
- ③関係機関のネットワーク機能の充実
- ④重心・医ケア児とその家族が安心できる地域づくり

【主な活動】

●部会全体の活動として、7/7(土)に発達障がい支援フォーラムの開催をする。「特性を生かして自分らしく生きる」をテーマとし、発達障がい児者の理解・サポートについて医学博士の星野仁彦氏を講師として招き、講演会・シンポジウムを予定している。

●義務教育段階の小学校から中学校までの支援が途切れない為のシステム作りの検討を進めていく。昨年度の成果として情報共有のためのフォーマットが完成した。今年度は教育委員会とも連携し、試用や実際の導入について検討を進めていく。

●幼児期からの相談経緯を蓄積していく体制づくりを具体的に進めていく。また、新しい相談の入り口として、メール相談についても他郡市の実態等を踏まえ検討していく。相談しやすい環境づくりを大切に考え、支援者のスキルアップを図る。

●「支援関係者のための相談マップ作り」を進めていく。相談マップにより、支援者が必要な情報や関係機関が一目でわかり、チーム支援の見通しが持ちやすくなる。作成したマップをたたき台として、行政や学校等の関係機関で活用しやすいものに修正していく。

●昨年度は実態調査のまとめと親の会を実施した。今年度は、そこで明らかになった課題の解消や保護者ニーズの実現のため、医療との連携強化を図っていく。また今後の方向性を明確にする為にも、この地域の実態を情報提供し、さらに保護者ニーズを掘り起こす場をセッティングする。

